

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0270102312		
法人名	有限会社ブロンディ		
事業所名	グループホームブロンディ		
所在地 (電話番号)	〒030-0847 青森県青森市東大野一丁目21番2号 (電 話) 017-762-3901		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年9月10日	評価確定日	平成21年10月26日

【情報提供票より】(平成21年8月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 1月 5日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人	
職員数	15 人	常勤	13人, 非常勤	2人, 常勤換算	14.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	19,500 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 300 円	昼食 300 円	
	夕食 400 円	おやつ 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月 26日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	1 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 79 歳	最低 61 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	とよあきクリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街にありながらも、周辺には病院、スーパーやコンビニ、学校、公園などがあり、地域の中にとけ込んだグループホームである。日常的に気軽に外出できる環境であり、地域の人々との交流の機会もある。また、家族も気軽に訪問され、日々の生活状況など随時確認できている。利用者がリビングに集い、他者と談笑したり、作業を行う等思い思いの時間を過ごし、時間がゆっくりと流れ落ち着いた雰囲気である。職員は対面式の台所で作業をしながらも視線は利用者に向け、必要時には迅速に対応できるよう配慮している。3つのサポート(生きがい作りサポート・自主的に表現できるサポート・幸せを感じるサポート)の理念実現を目指して、利用者主体のケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 投書箱を設置していたが、意見や苦情等が投函されないため現在は撤去している。そのため、家族からの意見や苦情等を把握するために、面会時等に事業所側から積極的に聴く努力をしている。現在、家族からの意見や苦情等は挙げられていないが、挙げられた場合を書面に残し管理する予定で取り組まれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義を理解し、日々のケアを振り返りながら全職員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの取り組みや行事、外部評価等の報告をし意見交換している。提出された意見や提案等は職員で話し合い、ホームの運営やケアの参考にしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11) 以前は投書箱を設置していたが殆ど投函がない為、面会時に家族に声をかけて、意見や苦情等を聴く機会作りをしている。家族からの意見や苦情等は、その都度職員間で共有、話し合い、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの利用者が地域の一員として、近くの公園の草刈り後の片付けやゴミ拾い等の役割を担っている。また、日常的に外出することで地域住民との交流がある。地域交流の一環として、夏祭りの企画や近隣の高校の実習の受け入れ、希望があれば見学も受け入れ、地域に開かれたホームでふれあいを大切にしている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでは代表が町内副会長や民生委員を担い、地域の一住民としての役割を大切に、「3つのサポート」を理念として掲げ利用者主体のケアに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やスタッフがいつでも見ることができる場所に理念を掲示し、意識付けしている。月1回のカンファレンス時に日々のケアを振り返りながら、理念の共有・実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	ホームの代表が町内副会長や民生委員を担っているため、町会長との交流が図りやすく地域へも協力も求めやすい。ホームの利用者が地域の一員として、近くの公園の草刈り後の片付けやゴミ拾い等の役割を担っている。 地域交流の一環として、夏祭りを企画し地域住民の協力を得ながら開催し、地域に定着しつつある。また、近隣の高校の総合学習の一環で実習の受け入れをしたり、希望があれば見学も随時受けている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は日々のケアを振り返りながら、全職員で実施している。また、外部評価の意義や評価後の内容は職員、運営推進委員で情報を共有し、改善が必要な場合はそれに向けて話し合い、対策を講じている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、入居者、町会長、民生委員、家族の参加のもと、家族が参加しやすいよう土曜日の午後に開催している。ホームの取り組みや行事、外部評価等の報告をし意見交換している。地域包括支援センターや市職員は勤務上の都合で参加できないが、会議の報告を行い意見や提案等を受け運営やケアの参考にしている。	○	話し合いで挙げられた意見や要望、その回答など書面に残すことが望ましい。それにより、他職員への情報の共有やサービスの質の向上につなげることが期待される。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現状の報告を行い、運営やサービスに関わる事で分からない事があれば随時相談できる担当者がおり、気軽に相談できている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在対象となる利用者はいないが、カンファレンスの時間に冊子を用いて職員へ説明する機会を設けている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、学んだ内容をカンファレンスの時間を用いて報告している。また、言葉による虐待も視野に入れ、事業所内で"言われて不快な言葉"や職員の意識等についてアンケートをとり、「言葉のルール」を作り取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面をもとにわかりやすい言葉で説明し、質問にも適切に返答している。また、不明な点はいつでも相談できるような雰囲気作りを心掛けている。		
10	12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年3回発行の広報や面会時に利用者の生活状況を伝えている。面会が困難な家族へは電話や写真を送るなどして報告している。金銭管理は毎月出納状況を書面で報告している。		
11	13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は投書箱を設置していたが殆ど投函がない為、面会時に家族に声をかけて、意見や苦情等を聴く機会作りをしている。家族からの意見や苦情等は、その都度職員間で共有、話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	○	利用者や家族から挙げられた意見や苦情等は、改善策やその実施後の評価など、再発防止のためにも書面に残す事が望ましい。
12	16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に抑えている。異動が決まった際は、利用者の混乱を避けるため特に報告はしていない。	○	状況に応じて利用者に与える影響が軽減できるような配慮や工夫をすることが望ましい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人採用時には認知症の対応などを指導する機会を設けている。内部研修は毎月カンファレンスの時間を用いて勉強会を開催している。外部研修は案内を掲示し、希望があれば参加できるような体制がある。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自ホームの主催により、地域包括支援センター圏域内の5ヶ所のグループホームと3ヶ月に1回、入居者も含めてリハビリ講習会を開催し、交流する機会がある。	○	定期的に交流する機会があるため、今後は事例検討や勉強会等の企画、また記録を残すことでケアを振り返る機会とし、サービスの質の向上につながることに期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはホームの見学や自宅へ出向き、利用者と面識を持つ事で不安の緩和につなげている。ホームへ入居してから、馴染みの関係が構築されるまでは、家族へ協力を求めながらホームに馴染める工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者主体で生活を組み立て支援している。利用者の行動を観察し、できないところだけを補うようにさりげなく自然にサポートしている。地域の風習や調理方法などを話題にしながら、利用者から学ぶという姿勢を大切にして関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や家族から得た情報、日々の利用者との会話や表情から、生活の希望や意向を把握している。個々の生活スタイルを尊重しながら対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を引き出しながら、職員の提案等を踏まえたうえでカンファレンスを行い、利用者の視点にたった介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスにて、介護計画が適切に実施されているか話し合い、3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。状態変化に応じて必要があれば関係者と話し合い、随時見直しがされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の希望に応じて、受診の送迎や外出支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を継続できることを説明しているが、殆どの利用者がホームの主治医に変更している。定期受診や発熱など緊急時の対応が可能で連携が図られている。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族の意向を踏まえ、終末を迎える体制ができています。状態の変化に応じて話し合いを重ね、協力医院の医師や看護師が往診し適切な処置が行われている。また、職員へ状況や今後の対応方針などの説明が医師よりあり、全職員で共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の観点から、居室の表札や行事写真などは掲示していない。言葉掛けについては、排泄など周囲に気づかれないよう別の言葉で誘うなど工夫されている。ドアをノックし声をかけてから戸を開けるなど、プライバシーを配慮した行動がされている。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式を用いて生活歴を確認、把握している。コミュニケーションを図りながら利用者の意向を引き出し、職員の都合ではなく、利用者の希望や行動に添ったサポートを心がけている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切る方、テーブルへ運ぶ方、食器をふく方等、利用者個々に役割があり、職員と一緒に台所に立っている。食事は職員も一緒に同じテーブルに座り同じ物を摂り、味付けや季節の話題で会話をしながら、明るい雰囲気作りを心掛けている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能だが、利用者の希望や体調に合わせて対応している。個々に合わせてゆっくりと入浴できる環境である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・洗濯物干し・調理など個々に役割があり、率先して行っている。利用者から外出計画が積極的に寄せられ、外出が楽しみごとの一つになっている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣にコンビニやスーパー、公園などがあり、できるだけ利用者の希望に添えるように対応している。花見やドライブ等にも外出する機会がある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員へはどのようなケアが身体拘束になるのか等、カンファレンスの時間を用いて説明し、実際に身体拘束は行なっていない。新入職員へは入社時に具体的に説明している。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ施錠している。日中帯は利用者の行動を観察しながら外に出て行っても無理に引き止めたりせず、散歩をして気分転換を図るなど寄りそうケアに取り組んでいる。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	消防署の協力のもと年2回の避難訓練以外にホームで独自に2回実施し、避難方法を身につけている。災害時は消防署・警察の他、町会長へも協力を求めている。災害時の備蓄はホーム以外に家族へも働きかけ利用者個人の物も準備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスに配慮し職員が考えている。1日の食事・水分摂取量を記録し健康状態を観察している。水分も嗜好品を取り揃え勤めている。また、状態に合わせて代替食等を常備し、栄養が充分摂れるよう配慮されている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し職員に周知している。インフルエンザの時期には予防接種を行い、手洗い・うがいを徹底し予防に努めている。今年は新型インフルエンザの流行あり、外出時はマスクを着用し、予防対策の時期を早め対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は適度に換気され、大きな窓からは適度な光が入り、ブラインドを用いて遮光されている。観葉植物が所々に置かれ、居心地の良い空間作りがなされている。生活感・季節感を五感を刺激してとり入れられるよう配慮している。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者・家族に説明して、自宅で使用していた家具や雑貨類の持ち込みを依頼している。趣味の物や家族の写真など、きれいに飾られ居心地の良い自分の居室作りがなされている。		

 は、重点項目。